

令和7年12月11日

瀬戸内市議会議長

小野田 光 様

瀬戸内市議会議員 厚東 晃央

政務活動費研修報告書

政務活動費を使用して、次のとおり研修活動をしましたので、その結果を報告します。

期間	令和7年11月10日～20日
研修会名	オンライン地方議員セミナー保育制度・政策の現状と自治体行政
開催場所	オンライン
研修内容	<p>講義1 保育制度の基本 講師 逆井 直紀氏</p> <ul style="list-style-type: none">・戦後の保育・幼児教育制度は、幼保二元的制度としてスタートした状況・こども・子育て支援制度導入前後の状況・こども・子育て支援制度の概要と特徴・多様な保育提供主体の混在・並立の状況 <p>講義2 最近の保育制度・政策の動向 講師 実方 伸子氏</p> <p>—待機児童対策重点政策からの転換</p> <ul style="list-style-type: none">・保育施設を取り巻く状況・国の定める保育費用の現状と処遇改善・保育の処遇と保育士不足の状況・異次元の少子化対策と配置基準改善の課題・最近の保育制度・政策の動向・保育制度・政策の改善課題 <p>講義3 こども誰でも通園制度の本格実施に向けた自治体の課題</p> <p>講師 岩藤 智彦氏</p> <ul style="list-style-type: none">・こども誰でも通園制度の準備のスケジュール・こども誰でも通園制度の概要



	<ul style="list-style-type: none"> ・ 試行的事業の調査研究事業について ・ 児童福祉法の設備運営基準の概要と課題 ・ 利用時間上限と利用 1 時間あたりを単位とする公定価格、直接契約の課題 ・ 柔軟利用、広域利用、要支援家庭等支援と申請主義の課題 (※講師はすべて保育研究所所属)
<p style="text-align: center;">所感</p>	<p>国は、少子高齢化社会の中で子どもやその家庭が生活しやすいように進んでいる方針であるが、実際に反映される施策は現状にすぐわないものが多いと感じる。新しく導入されることになった「こども誰でも通園制度」は待機児童がいる地域にすぐわないし、わが市でも実施しているが一時預かり保育制度との違いは明確ではないと感じた。</p> <p>今回の研修では、保育制度の基本や最近の情勢などを学んで感じたが、「こども誰でも通園制度」など導入するより、こどもの通う保育園やこども園に十分な人や施設ができるように十分な予算をかけることが必要と感じた。そもそも、こどもとその家庭が安心して生活できるように社会を安定させることが必要と改めて感じた研修だった。</p> <p>保育情勢の変化もしっかり把握しながら、議会質問等でもより良い保育環境にできるようにしなければいけないと感じた。</p>